

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点 ※文系は10点。理系は12点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 日本の文壇には、文学は方法などでは解決できない作家の人間の問題だという頑固な通念が存在するので、
B
C
D E

文学の創作を方法という功利的な感じの強い言葉で表現することを忌避するような雰囲気が存在していたから。

■要素A 「日本の文壇には」…1点

■要素B 「文学は方法などでは解決できない作家の人間の問題だ」…3点

■要素C 「頑固な通念が存在する」…2点

■要素D 「文学の創作を方法という功利的な感じの強い言葉で表現する」…3点

■要素E 「忌避するような雰囲気が存在していた」…1点

■要素F 文末表現は「…から・ため・ので」といった形が原則。但し、理由説明の答案として挙証しうる形なら可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問二 ※別解あり

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

文学を宗教的な意味での鍛錬道、修業道と考へ、人間の生き方のそのままの報告として書かれている私小説

B

C

に対する、それでは芸術として成立し得ないという焦燥感。

D

- 要素A 「文学を宗教的な意味での鍛錬道、修業道と考へ」…3点

- 要素B 「人間の生き方のそのままの報告として書かれている私小説」…2点

- 要素C 「(私小説は) 芸術として成立し得ない」…2点

- 要素D 「焦燥感」…1点

- 要素E 筆者の「思い」を説明する答案として妥当な文末表現であると判断できれば広く許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■別解 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

B

文学は修行道ではなく、芸術なのだから、ただあるがままの生活の描写に甘んじるのではなく、

C

より効果的な作品を作ろうという意識があつてしかるべきではないかという思い。

■要素A 「文学は修行道ではなく、芸術なのだから」…3点

■要素B 「ただあるがままの生活の描写に甘んじるのではなく」…2点

■要素C 「より効果的な作品を作ろうという意識があつてしかるべきという思い」…3点

■要素D 筆者の「思い」を説明する答案として妥当な文末表現であると判断できれば広く許容してよい。
不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 文学の方法を、生きる方法とする私小説と、描く方法とする芸術至上主義の二つの在り方は、それぞれの作

家の中に重複し助け合うものとして種々の割合で併存している。

D E

■要素A 「文学の方法を、生きる方法とする私小説」…3点

■要素B 「(文学の方法を)描く方法とする芸術至上主義」…3点

■要素C 「(二つの在り方は、)それぞれの作家の中に」…1点

■要素D 「重複し助け合うものとして」…2点

■要素E 「種々の割合で併存している」…1点

■要素F 筆者の考えをまとめた答案の文末表現として妥当であると判断されるなら広く許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問四 (文系のみ)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 2点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ①

B

C

私小説について考えるうちに、作品創造のための技術の総合を方法と見るのではなく、 文芸という芸術秩序

D

の中の手段や芸術生活の方が、人間の存在の意味や生命のあり方を追求するために利用される方法になると

A ②

いう見方も成り立ちうると認めざるを得なくなったということ。

■要素A 「私小説について考えるうちに、……認めざるを得なくなった」…2点

■要素B 「作品創造のための技術の総合を方法と見るのではなく」…3点

■要素C 「文芸という芸術秩序の中の手段(や芸術家生活)」…3点

■要素D 「人間の存在の意味や生命のあり方を追求するために利用される方法になる」…4点

*要素Cを主部とした説明。要素C・Dが主述の関係になっても可。

■要素E 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C D

私小説では、作家が他者の評価や迷惑な思いなど無視して己の生き方を貫き、それを技巧など交えず作品に書く行為が、良心的態度という形で一貫しているということ。

E

- 要素A 「私小説では」…1点
- 要素B 「作家が他者の評価や迷惑な思いなど無視して」…3点
- 要素C 「(作家が)己の生き方を貫き」…2点
- 要素D 「技巧など交えず作品に書く行為」…2点
- 要素E 「良心的態度という形で一貫している」…2点
- 要素F 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

・文末表現は要素F参照

基準 配点 2点
1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 夫が自分を小桶に入れない白熊に喩えたことを、
B 普段は動物に擬えられるのを嫌うかの子が面白がったのは、
C 彼女が世俗に受け容れてもらえない
D 自分の気質や器量を自覚していて、
E かの子も夫の比喩に納得したから
だろうということ。

■要素A 「夫が自分を小桶に入れない白熊に喩えた」…2点

■要素B 「普段は動物に擬えられるのを嫌うかの子が面白がった」…2点

■要素C 「彼女が世俗に受け容れてもらえない」…3点

■要素D 「自分の気質や性格や器量を自覚していて」…3点

■要素E 「かの子も夫の比喩に納得したからだろう」…2点

■要素F 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

詩人は、自然や無生物とも自分と同様の感覚や感情を持つ存在として向き合い、その生命を愛おしむが故に、

D E

彼らの営みの一つ一つに同情し、心を揺り動かされるから。

- 要素A 「詩人は」…1点

- 要素B 「自然や無生物とも自分と同様の感覚や感情を持つ存在として向き合い」…3点

- 要素C 「その生を愛おしむ」…1点

- 要素D 「彼ら（それらでも可）の営みの一つ一つに同情し」…2点

- 要素E 「心を揺り動かされる」…1点

- 要素F 文末表現は「…から・ため・ので」といった形が原則。但し、理由説明の答案として挙証しうる形なら可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

お人好しで気位の高いかの子は、幾度も無理解な他者の迫害を受けたが、

C

彼女はそれを自分の優質に起因す

D

るものとして悔しさを噛みしめつつ甘受していたということ。

■要素A 「お人好しで気位の高いかの子」…2点

■要素B 「幾度も無理解な他者の迫害を受けた」…2点

■要素C 「彼女はそれを自分の優質に起因するものとして」…2点

■要素D 「悔しさを噛みしめつつ甘受していた」…2点

■要素E 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ①

B

A ②

自分を理解する者は、自分と同等の微妙と複雑を含んだ単純な資質を備えていなければならないが、他人などいるはずがなく、理解など期待できないという諦念。

■要素A 「自分を理解する者は、……そんな他人などいるはずがなく」…3点

■要素B 「自分と同等の微妙と複雑を含んだ単純な資質を備えていなければならない」…3点

■要素C 「諦念」…2点

■要素D かの子の「思い」を説明した答案の文末表現として妥当と判断できれば、広く許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点 4点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B①

かの子がその内面に蔵していた何か深奥幽玄なる優質の実体は、夫婦として長年月共に生活していても、

C B② D

筆者のような凡庸な人間には把握しようがなく、本体である優質のかの子は、筆者の目に映った日常のかの

E

子の言動や行動などをもとにして推量するしか方法がないということ。

■要素A 「かの子がその内面に蔵していた」…2点

■要素B 「何か深奥幽玄なる優質の実体…本体である優質のかの子」…3点

■要素C 「筆者のような凡庸な人間には把握しようがなく」…3点

■要素D 「筆者の目に映った日常のかの子の言動や行動などをもとにして」…3点

■要素E 「推量するしか方法がない」…3点

■要素F 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

三 古文 50 点

▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。
問一 10 点

【模範解答】氏忠はなんともいえないほど美しい菊の一枝を持っていたので、神奈備皇女がいらっしやると思われる部屋の簾の下に、それに和歌を書いた手紙を結んでさし入れるが、神奈備皇女はそれを不愉快そうに御覧になる。(97字＝3行)

A 氏忠はなんともいえないほど美しい菊の一枝を持っていたので、

3点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「持たりければ」の主体＝橘氏忠は／氏忠は／君は

1点

2 「えならぬ一枝を」の解釈＝なんともいえないほど美しい菊の一枝を／なんともいえないほど風情がある菊の一枝を

1点

3 「持たりければ」の解釈＝持っていたので／持っていたから

1点

B 神奈備皇女がいらっしやると思われる部屋の簾の下に、それに和歌を書いた手紙を結んでさし入れるが、

3点

次の1～2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「あたれる間の簾の下に」の解釈＝神奈備皇女がいらっしやると思われる部屋の簾の下に／神奈備皇女の部屋辺りの簾の下に

1点

2 「さし入るるを」の解釈＝和歌を書いた手紙を結んでさし入れるが／和歌を書いた紙を結んでさし入れるが

2点

C 神奈備皇女はそれを不愉快そうに御覧になる。

4点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「見たまふ」の主体＝神奈備皇女は（「皇女」は複数登場するので、「皇女」だけでは不可）

1点

2 「めざましう」の解釈＝不愉快そうに／困ったように／心外なように／あきれたように／驚いたように

2点

3 「見たまふ」の解釈＝御覧になる／見なさる／見ていらっしやる／眺めていらっしやる

1点

【模範解答】

興にまかせて笛を吹きながら、欄干に寄りかかって座っている氏忠の美しい容姿・容貌を見ては、たとえ皇女たちであっても冷たい態度ではいられなくなるということ。(「の字」3行)

A 興にまかせて笛を吹きながら、欄干に寄りかかって座っている氏忠の美しい容姿・容貌を見ては、

6点

次の1～4の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「いとどえ立ち去らず笛を吹きすさびて、高欄に寄りみたる」の主体Ⅱ(橘)氏忠の／君の

2点

2 「いとどえ立ち去らず笛を吹きすさびて」の解釈Ⅱ興にまかせて笛を吹きながら／立ち去ることができそうもない様子で笛を吹きながら／後ろ髪を引かれるように笛を吹きながら／立ち去れそうもない様子で笛を吹きながら

1点

3 「高欄に寄りみたる」の解釈Ⅱ欄干(手摺)に寄りかかって座っている／高欄(勾欄)にもたれて座っている

1点

4 「さまかたち」と「え心強かるまじうぞある」の関係Ⅱ美しい容姿(容貌)を見ては／妖艶な姿形を見ては／優美な姿を見ては

2点

B たとえ皇女たちであっても冷たい態度ではいられなくなるということ。

4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「皇女たちにも」の解釈Ⅱ(たとえ慎み深い)皇女たちであっても／(たとえ高貴な)皇女たちであっても

2点

2 「え心強かるまじうぞあるや」の解釈Ⅱ冷たい態度ではいられなくなるということ。／情にほだされてしまいということ。／意志が揺らいでしまうということ。／意志を強く保てなくなるということ。

2点

◆ 減点の条件

文末表現が「…(という) 名詞」「…(という) こと。」「1点」となっていない答案は、減点

1点

【模範解答】

氏忠がまったくこの誰よりもこの上なく美しい様子で、たびたび母皇后宮のもとに参上なさるのを、神奈備皇女は普段からも本当に美しいとご覧になっていらっしゃるので、積極的にというわけではないが、神奈備皇女はご返事などもわずかに言いかわしなさっていらっしゃるうちに、(120字＝4行)

A 氏忠がまったくこの誰よりもこの上なく美しい様子で、たびたび母皇后宮のもとに参上なさるのを、4点

次の1～4の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「しばしば参りたまふを」の主体(橘) 氏忠が／君が 1点

2 「しばしば参りたまふを」の客体(神奈備皇女の) 母皇后宮のもとに／神奈備皇女の母宮のもとに 1点

3 「なべて人に似ずきよらなるさまにて」の解釈まったくこの誰よりもこの上なく美しい様子で／総じて誰よりもこの上なく美しい様子で／普通の人とは比較にならないほど美しい様子で 1点

4 「しばしば参りたまふを」の解釈たびたび参上なさるのを／頻繁に参上なさるのを／度々たびたび参上なさるのを 1点

B 神奈備皇女は普段からも本当に美しいとご覧になっていらっしゃるので、3点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「見たまへば」の主体神奈備皇女は 1点

2 「おほかたにもいとあはれと」の解釈普段からも本当に美しいと／普通に考えても本当に美しいと／およそ本当に美しいと 1点

3 「見たまへば」の解釈ご覧になっていらっしゃるので／ご覧になるので／見なさっているから／お思
いになっているから 1点

C 積極的にというわけではないが、神奈備皇女はご返事などもわずかに言いかわしなさっていらっしやるうちに、3点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「わざとならねど」の解釈積極的にというわけではないが／わざわざご自分からなさるのではないが
／わざわざということではないが

2 「のたまひ交すに」の主体神奈備皇女は

1点

3 「御いらへなどもほのかにのたまひ交すに」の解釈ご返事などもわずかに言いかわしなさっていらっしやるうちに／ご返事なども微かに言いかわしていらっしやると／ご返事なども少し言いかわしなさって

る時に

1点

☆ 現代語訳の設問なので、謙讓語・尊敬語等ははっきりと表現すること。

【模範解答】

無事に月日を生き長らえて過ごしているあなたが、死ぬほど恋に焦がれているなどは、誰も思っていないということ。(54字〓2行)

A (あなたは) 無事に月日を生き長らえて過ごしている 4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「長らへて過ごす月日」の主体〓あなたが／氏忠殿が 2点

2 「長らへて過ごす月日」の理解〓無事に月日を生き長らえて過ごす／無事に過ごして月日を生き長らえ

る 2点

B (そんなあなたが) 死ぬほど恋に焦がれているなどと 4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「その恋死ぬばかり思ふ」の主体〓あなたが／氏忠殿が 2点

2 「その恋死ぬばかり思ふ」の理解〓死ぬほど恋に焦がれている／恋いに焦がれて死ぬほど 2点

C (あなたのことをそんなふうに) 誰も思っていないということ。 2点

次の1の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「誰か…見ん」の理解〓誰も思っていないということ。／誰が思っているかということ。 2点

◆ 減点の条件

文末が「…(という)こと。」「…(という)名詞。」となっていない答えは減点 1点。

【模範解答】

あなたと何事もないまま、むなしく明かした長い夜の明け方、私は朝露に濡れ、涙に泣き濡れて帰ってゆくのでしょうか。(55字＝2行)

A あなたと何事もないまま、むなしく明かした長い夜 4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「いたづらに明かせる夜半の長き夜」の解釈＝むなしく明かした長い夜／何事もなく明かした長い夜

1点

2 「いたづらに明かせる」の理解＝あなたと何事もないまま／あなたと契りを結ぶことなく

3点

B 明け方、私は朝露に濡れ 2点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「暁露にぬれ」の主体＝私は

1点

2 「暁露にぬれ」の解釈＝明け方、朝露に濡れ

1点

C 涙に泣き濡れて帰ってゆくのでしょうか 4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば下記の得点を加点する。

1 「暁露にぬれかゆくべき」の主体＝私は

1点

2 「暁露にぬれかゆくべき」のもう一つの解釈＝涙に泣き濡れて帰ってゆくのでしょうか

3点

☆ 和歌の解釈なので、敬語表現があってもよい。

以上